

教育委員会事務点検・評価報告書

(令和元年度事業対象)

令和2年8月

竹原市教育委員会

目次

| | | |
|---|-------------------------|----|
| 1 | 教育委員会の事務の点検・評価制度について | 1 |
| 2 | 令和元年教育委員会会議開催実績 | 2 |
| 3 | 評価の方法 | 5 |
| 4 | 令和元年事業の点検及び評価 | 10 |
| | (1) 学校教育 | |
| | (2) 生涯学習・青少年育成 | |
| | (3) 歴史・文化財 | |
| 5 | 評価委員の点検・評価 | 36 |
| 6 | 参考資料 | 42 |
| | (1) 令和元年度 全国学力・学習状況調査結果 | |
| | (2) 令和元年度 新体力テスト結果等 | |
| | (3) 令和元年度 図書館・美術館利用状況等 | |

1 教育委員会の事務の点検・評価制度について

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、平成20年度から、全ての教育委員会は、毎年度、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることも規定されています。

竹原市教育委員会では、この法律に基づき、教育委員会の事務の点検・評価を行い、教育行政サービスの質の向上と効率化を進めてまいります。

(参考) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 (平成19年6月27日一部改正)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成31年・令和元年教育委員会会議開催実績

| 教育委員会 開催年月日 | 開催回数 定例臨時別 | 議案 番号 | 件 名 |
|----------------|---------------|-----------|--|
| H31. 1. 24 | 第1回 定例会 | 1 | 定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について(平成30年度教育委員会関係補正予算案) |
| H31. 2. 1 | 第1回 臨時会 | 2 | 教育長職務代理者の指名について |
| H31. 2. 14 | 第2回 定例会 | 3 | 県費負担教職員の任免その他の進退についての広島県教育委員会への内申について |
| | | 4 | 竹原市教育委員会永年勤務職員表彰について |
| | | 5 | 平成30年度準要保護児童及び生徒の認定について |
| | | 6 | 教育委員会及び市長の権限に属する事務の補助執行について |
| | | 7 | 定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について(竹原市地域交流センター条例案(竹原市立公民館設置及び管理条例等に関連する)) |
| | | 8 | 定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について(平成31年度教育委員会関係当初予算案) |
| | | 9 | 平成31年度竹原市学校教育ビジョンについて |
| | | 10 | 教育長に対する権限委任規則の一部を改正する規則案 |
| H31. 3. 14 | 第2回 臨時会 | 報告 協議 | 平成30年度末・平成31年度始教職員の人事について |
| H31. 3. 20 | 第3回 定例会 | 11 | 職員の任免その他の人事について |
| | | 12 | 平成30年度準要保護児童及び生徒の認定について |
| | | 13 | 学校医の委嘱について |
| | | 14 | 竹原市嘱託学芸員の委嘱について |
| | | 15 | 市立竹原書院図書館長の任命について |
| | | 16 | 竹原市スポーツ推進委員設置規則の一部を改正する等の規則案 |
| | | 17 | 竹原市教育委員会事務局の組織に関する規則及び竹原市伝統的建造物群保存地区保存条例施行規則の一部を改正する規則案 |
| | | 18 | 要保護及び準要保護児童生徒援助費支給要綱の全部を改正する告示案 |
| | | 19 | 竹原市教育委員会永年勤務職員表彰実施規程の一部を改正する告示案 |
| | | 20 | 竹原市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令案 |
| H31. 4. 18 | 第4回 定例会 | 報告 第1号 | 臨時代理処分の承認について (学校歯科医の委嘱について) |
| | | 21 | 竹原市立学校学校評議員の委嘱について |
| | | 22 | 竹原市結核対策委員会委員の委嘱について |
| | | 23 | 市立竹原書院図書館協議会委員の任命について |
| | | 24 | 竹原市スポーツ推進委員の委嘱について |
| | | 25 | 竹原市結核対策委員会設置要綱の一部を改正する訓令案について |
| | | 報告 協議 | 学校施設の耐震診断結果の公表について |

| | | | |
|---------|--------|-------|--|
| R1.5.9 | 第3回臨時会 | 26 | 令和2年度使用教科用図書の採択基本方針及び竹原市教科用図書採択地区の採択事務に関する要綱の改正について |
| R1.5.16 | 第5回定例会 | 27 | 竹原市教科用図書採択地区選定委員会委員の委嘱について |
| | | 28 | 竹原市教科用図書採択地区調査員の委嘱について |
| | | 29 | 竹原市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について |
| | | 30 | 竹原市社会教育委員の委嘱について |
| | | 31 | 定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（竹原市公立学校施設使用料条例等の一部を改正する条例案） |
| | | 32 | 竹原市立学校等屋外運動場夜間照明施設利用実施要綱の一部を改正する告示案 |
| | | 報告協議 | 学校における働き方改革取組方針及び竹原市立学校の教師の勤務時間の上限に関する指針について |
| | | 報告協議 | 運動部活動の方針について |
| R1.5.28 | 第4回臨時会 | 33 | 竹原市教育相談員の委嘱について |
| R1.6.27 | 第6回定例会 | 報告第2号 | 臨時代理処分の承認について（定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（平成31年度教育委員会関係補正予算案）） |
| | | 34 | 平成31年度準要保護児童及び生徒の認定について |
| | | 35 | 竹原市特別支援教育相談委員会委員の委嘱について |
| | | 36 | 竹原市特別支援教育相談委員会推進員の委嘱について |
| R1.7.25 | 第7回定例会 | 32 | 竹原市立学校等屋外運動場夜間照明施設利用実施要綱の一部を改正する告示案【継続審議】 |
| | | 37 | 令和元年度準要保護児童及び生徒の認定について |
| | | 38 | 竹原市教育委員会表彰について |
| | | 39 | 外国語指導助手の任命について |
| | | 40 | 竹原市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について |
| | | 41 | 竹原市文化財保護委員会委員の委嘱について |
| | | 42 | 令和2年度使用竹原市小学校及び義務教育学校前期課程教科用図書の採択について |
| | | 43 | 令和2年度使用竹原市中学校及び義務教育学校後期課程教科用図書の採択について |
| R1.8.9 | 第5回臨時会 | 44 | 竹原市立幼保連携型認定こども園に係る教育委員会の意見聴取に関する規則の制定に対する意見の申出について |

| | | | |
|------------|-------------|-----------|--|
| R1. 8. 22 | 第8回 定例会 | 報告 第3号 | 臨時代理処分の承認について（竹原市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について） |
| | | 45 | 定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（竹原市立幼稚園設置及び管理条例を廃止する条例案） |
| | | 46 | 竹原市立幼保連携型認定こども園に係る教育委員会の意見聴取について（設置管理条例案） |
| | | 47 | 定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（令和元年度教育委員会関係補正予算案） |
| | | 48 | 令和元年度準要保護児童及び生徒の認定について |
| | | 49 | 令和2年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について |
| | | 50 | 平成30年度教育委員会事務点検・評価報告書案について |
| R1. 8. 30 | 第6回 臨時会 | 51 | 定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（竹原市立幼稚園設置及び管理条例の一部を改正する条例案） |
| | | 52 | 定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（竹原市立幼稚園設置及び管理条例を廃止する条例案） |
| | | 報告 協議 | 文化部活動の方針について |
| R1. 9. 26 | 第9回 定例会 | 53 | 令和元年度準要保護児童及び生徒の認定について |
| R1. 10. 24 | 第10回 定例会 | 報告 協議 | 竹原市学校施設長寿命化計画の策定について |
| R1. 11. 28 | 第11回 定例会 | 54 | 定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（竹原市附属機関設置条例案） |
| | | 55 | 定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例案） |
| | | 56 | 定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案） |
| | | 57 | 定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（竹原市歴史民俗資料館設置及び管理条例の一部を改正する条例案） |
| | | 58 | 定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（竹原市伝統的建造物設置及び管理条例の一部を改正する条例案） |
| | | 59 | 定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（令和元年度教育委員会関係補正予算案） |
| | | 60 | 竹原市学校運営協議会規則案 |
| R1. 12. 19 | 第12回 定例会 | 61 | 令和元年度準要保護児童及び生徒の認定について |

3 評価の方法

(1) 点検・評価の対象となる事業

竹原市では、平成31年3月に「竹原市教育大綱」を策定し、市長部局と教育委員会が連携し、取り組むべき3つの柱を掲げました。そのうち、重点的に取り組む施策を推進するための事務事業について、令和元年度の実績に基づき、それぞれ点検・評価を行います。

【竹原市教育大綱】

- ・学校教育（評価対象事業数 12）
- ・生涯学習・青少年育成（評価対象事業数 5）
- ・歴史・文化財（評価対象事業数 3）

(2) 対象となる期間

令和元年度とします。

(3) 点検・評価の方法

評価対象事業となる20の事業について、必要性、効率性及び有効性の観点を中心に、前年度の評価委員からの意見を踏まえ、評価シートごとに、点検・評価を行いました。

個別評価及び総合評価については、達成度及び今後の方向性を次のとおりそれぞれ4段階評価及び7段階評価で行いました。

【達成度（4段階評価）】

| 達成度 |
|----------|
| 達成している |
| ほぼ達成している |
| 十分ではない |
| 達成していない |

【評価基準（7段階評価）】

| 評価 |
|-------------|
| 拡大・重点化 |
| 改善 |
| 継続 |
| 縮小 |
| 終了・完了（今年度中） |
| 統合（今年度中） |
| 廃止（今年度中） |

※ 平成30年度事務点検評価報告書の評価委員の意見は次のとおりでした。

I 総括的な意見

今日、グローバル化や高度情報化、知識基盤社会が世界規模で加速度的に進展し、予測不可能性が一段と増す一方で、環境やエネルギー、食、貧困など様々な社会問題が世界の至るところで表出している。我が国においても、これらに起因した社会構造の複雑化、価値観の多様化と併せて、少子高齢化や過疎化等に伴う社会コミュニティの衰退が顕在化し、全国津々浦々、地域創生が喫緊の課題として諸施策が講じられているところである。具体的には新しい価値やサービスを創出する Society（ソサエティ）5.0の実現が謳われ、その一方途として、近い将来を担う子供たちに対し、全ての人とモノがつながる IoT（Internet of Things）や人工知能（AI）環境の中で諸課題を解決し逞しく生き抜く力や、共存の精神のもと持続可能な社会を築く資質・能力を身に付けさせることが強く期待されている。

竹原市教育委員会におかれては、こうした時代の趨勢を見極めつつ第6次竹原市総合計画の策定に基づき竹原市教育大綱を定められ、進取果敢に教育施策を展開されている。具体的には、グローバル化、高度情報化等を視野に入れた「ICT活用教育」や「英語教育」の推進、また、本市の先人が創り上げた掛け替えのない文化や歴史を大切にしつつ、持続可能な本市の未来を標榜した「地域とともにある学校」づくりに係る「コミュニティ・スクール」のシステムの導入計画等は時宜を得た施策として大いに評価できる。

なお、諸事業を総括的に俯瞰するとき、単発的なイベントがやや多いように感じられ、今後においては、本市の総合計画、教育大綱に依拠した複数部署にまたがる未来志向のシステムづくり及びマネジメントの遂行を保障する取組を期待する。

以下については、本市教育委員会が所管されている平成30年度各事業のなかで特筆すべきものを抽出し評釈するものである。

II 各事業に対する意見

【未来の人材育成事業】

グローバル社会の到来により、子供たちには今後ますます異文化や多様性を受容し社会的包摂の理念のもと、協働して持続可能な社会を創造するためのコミュニケーションスキルや語学力を身に付けることが求められる。

本市におかれては、ここ数年来「竹原英語チャレンジ」「イングリッシュキャンプ」等の事業を通して児童生徒の英語力が着実に向上していることが見て取れる。とりわけ、英語検定3級取得率は、全国平均の2倍近くに達しており、本市の重点事業が着実に実を結んでいる一つと考える。蛇足ではあるが、先般も本市教育委員会発行の「学校教育だより」のなかで、今年度の「イングリッシュキャンプ」の実施及び成果等を広く市民に発信され説明責任を果たしておられることは賞賛できる。

【「学びの変革」全校展開】

来年度以降、小学校から順次「社会に開かれた教育課程」をコンセプトにした新学習指導要領に則った学習活動が展開される。

本市各小・中学校におかれては、ここ数年来、教員の授業力向上の研修を充実され学習指導要領に準拠した手堅い教育活動を展開されている。また、児童生徒の学力の定着状況については「全国学力・学習状況調査」等の結果を主たる拠り所として分析、授業改善に努められ、全市的には

一定の成果が上がっていることが見て取れる。

今後においては、子供たちに身に付けさせたい資質・能力を、認知能力のみならず対人間関係能力、総合的な人間力等を視野に入れられつつ、当該校の教育課程や日々の授業をマネジメントされることが肝要と考える。特に、市内各小・中学校に、引き続き広島版「学びの变革」アクションプランを奨励されるとともに、「主体的・対話的で深い学び」を子供たちにいかに保障するかを各種研修等で追究されることを大いに期待するものである。

【学校 ICT 活用教育推進事業】

本市におかれては、高度情報化社会を見据え、子供たちが近未来の社会において逞しく生き抜く資質・能力を育成する一方途として、長年にわたって ICT 活用教育の推進により多くの成果を上げられ、全国の先進地域として認知されていることは高く評価できる。ここ数年間は地域創生を目指す「まち・ひと・しごと創生法」に係る事業の一環としても学校における ICT 活用の環境整備に努められ、本市の持続可能な未来を創る子供たちへの先行投資を図られていることは高い価値があると考えます。

新学習指導要領においても、プログラミング学習や遠隔授業による子供たちの資質・能力のさらなる向上が求められており、本市のこれまでの実績及び充実した施設・設備等の教育環境のもと、引き続き全国のリーディングエリアとして本市の将来を担う子供たちの育成を強く期待するものである。

【組織的な生徒指導体制の確立】

子供たちを取り巻く社会の状況が刻々と変化する中、生徒指導上の課題が従前にもまして多様化、複雑化してきている。また、思春期を迎える小学校高学年から中学時代は、全国的に心の不安定さに起因する、暴力行為、いじめ、不登校等が際立って現出しており、本市におけるこの時期の高い発生率も例外ではない。この課題解決のためには各学校における一貫した指導体制が求められており、併せて、小・中学校間の円滑な連携・接続が重要視されているところである。

本市におかれては、幸いにも昨年度、義務教育学校である吉名学園が開校し、その成果の一つとして、小・中学校の円滑な接続による生徒指導上の諸課題が減少傾向にあると聞く。

具体的には、9年間を見通した教育課程の編成、小学校文化と中学校文化の調和（中学校教員による小学校高学年での教科担任制、小中一貫した発達の段階を考慮した校則等の見直し、部活動等異学年集団による居場所づくり等）による連続性のある学習指導、生徒指導が図られ成果に繋がっているとのことである。市内の他の小・中学校におかれても、吉名学園の成果に学び、各中学校区単位で可能な範囲内で独自の有効な取組を期待するものである。

【青少年指導員設置事業】

本市の持続可能な未来を創出するためには、乳幼児段階から成人になるまで切れ目のない子育て・家庭教育支援活動を推進し、子供たちの健やかな成長を図ることが肝要である。しかし、今日核家族化や地域コミュニティの衰退による保護者の孤立化、併せて経済的に厳しい家庭が増加し子供の貧困率が上昇するなか、健やかな成長を阻害されている現状がある。

こうした状況に鑑み、行政機関や福祉関係機関がイニシアティブをとり、地域や学校等と連携を図りつつ、相互扶助による子育て・家庭教育支援の仕組みづくり、さらには地域づくりが希求されているところである。

幸いにも本市においては、妊娠期から子育て期において、親子の育ちを応援する「たけはらっ

こネウボラ」等のシステムが軌道に乗り成果が上がっているところであり、今後においては、青少年育成竹原市民会議等を核にして学齢期以降への施策の重点化を図られ、より強い支援が急がれるところである。

【公民館運営事業】

平成30年度の公民館利用者数及び公民館教室・講座数は前年度と比し減少している。こうした傾向は、個人、社会的ニーズの急速な変化に対応が遅れている公民館の全国的な課題とされている。

幸いにも今年度から公民館から移行された本市各地域交流センターは、これまで市内各公民館で展開されてきた生涯学習事業を一層充実されるとともに、世代を超えた新たな交流を生み出すための「仕掛けづくり」の機能を付加され「地域力向上活動」の拠点として期待されているものである。

今後においては、新たな担当部署との連携を密にされつつ、市民に対する啓発活動を推進するとともに、各分野の住民自治組織の人々の交流と連携の機会と場が活性化するよう諸施策を講じられ、本市の地域コミュニティの創生や協働のまちづくりのさらなる前進を切望する。

とりわけ、持続可能な本市の将来を担う子供たちの育成を図る「地域とともにある学校」を標榜される本市におかれては、地域交流センターが故郷を大切にすること子供たちの豊かな学びの核となる場として機能されることを期待するものである。

【伝統的建造物群保存事業】

地域の歴史的魅力を発信し地域活性化を図ることを主目的とする日本遺産のひとつに、この度「北前船寄港地・船主集落」として本市の町並み保存地区他が認定された。当該町並み保存地区は、ここ数年来の計画的な整備によって、文化・歴史の価値づけや維持・保存を確保するとともに、観光による本市産業の競争力強化の一方途として寄与しており、「誇りと愛着を持てるまち」「個性的で魅力あるまち」を目指される本市の一環施策として位置付けられると捉える。

本市におかれては、「歴史文化啓発冊子作成事業」「竹原芸術イベント事業」「文化財指定事業」など諸事業との連動を図りつつ、本市市民（青少年も含む）のシビックプライドを高め、更なる地域コミュニティの活性化を図られることを強く期待するものである。

【トップアスリートスポーツ教室】

スポーツは、心身の健康や体力の維持増進を図るとともに、人格形成にも大きく寄与し文化的な生活を営むための根幹でもある。また、スポーツの普及により、地域コミュニティの活性化が図られ、地域社会に活力を生み出すことにも副次的な意義がある。

そうした中、国際競技社会で活躍するアスリートの直接指導による教室の開催は、子供たちの競技力の向上はもとより夢と感動を与えスポーツへの関心を高める絶好の機会となる。

しかし、市内全域にわたるニーズがあるにもかかわらず、昨年度の参加者が前年度に比し大幅に減少している要因には、広報不足の感が否めない。今後においては、要因分析をされるとともに、有効な手立てを講じられ、本市のスポーツ振興がさらに促進されることを期待するものである。

（４）評価委員による評価

5名の学識経験者の方による外部評価を行いました。

竹原市教育大綱について

○ 施策体系

第6次竹原市総合計画～前期基本計画～を構成する4つの将来像のうち、「“文教のまちたけはら”の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち」「自然・歴史・文化に生まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち」を目指すため、竹原市教育大綱では、『故郷を大切にし、未来を拓く人づくり』を基本理念として設定しました。

この基本理念を実現するため、総合計画の施策の方向性を活かしつつ、教育大綱では、「学校教育」、「生涯学習・青少年育成」、「歴史・文化財」の3項目を柱とし、10年後の目指す姿を掲げ、取組の方向性を示しています。

将来像

【人材】「“文教のまちたけはら”の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち」

【個性】「自然・歴史・文化に生まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち」

目標像

【人材】子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている

【人材】市民一人一人が自ら学び、様々な場面で協力しながら活躍している

【個性】竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれている

教育大綱：3つの柱【10年後の目指す姿⇒取組の方向性】

○【人材】学校教育

夢をもち、多様な人々と協働し、社会を主体的に生き抜くことが出来る人材を育成している

○【人材】生涯学習・青少年育成

- ・多彩な生涯学習の場が充実し、それらを担い、推進していく人材が育っている
- ・教育上特別な配慮を必要とする児童生徒等への適切な支援をはじめ、乳幼児から青少年まで健全に成長できる環境が充実している

○【個性】歴史・文化財

歴史と文化財が保存・継承され、地域の活性化に活かされている

基本理念：故郷を大切にし、未来を拓く人づくり

4 令和元年度事業の点検及び評価

(1) 学校教育

| 重点的施策 | 点検・評価の対象事業 |
|----------------------|--------------------|
| 地域ともにある信頼される学校づくりの推進 | コミュニティ・スクール導入事業 |
| | 教職員の人材育成 |
| | 人材育成の推進 |
| 幼保小連携教育の推進 | スタートカリキュラム |
| 「確かな学力」の向上 | 未来の人材育成事業 |
| | 「学びの変革」全校展開 |
| | 学校 ICT 活用教育推進事業 |
| | 特別支援教育 |
| 「豊かな心」の育成 | 生徒指導支援員 |
| | 竹原市キャリアスタートウィークの実施 |
| 「健やかな体」の育成 | 体カテスト分析を通じた指導の工夫改善 |
| 充実した教育環境づくり | 小中一貫教育の推進 |

(2) 生涯学習・青少年育成

| 重点的施策 | 点検・評価の対象事業 |
|--------------------------|---------------------|
| 生涯学習拠点・機会の充実 | 地域交流センター運営事業 |
| | 図書館運営事業 |
| | 竹原市総合文化祭開催事業 |
| | 竹原市立学校児童生徒図画書道展開催事業 |
| 学校と地域の協働による生涯学習の推進 | 学びから始まる地域づくりプロジェクト |
| | 文化芸術体験等事業 |
| スポーツ・芸術の振興 | スポーツ推進委員活動事業 |
| | トップアスリート等スポーツ教室 |
| | 各種大会等開催事業 |
| | 竹原市美術展開催事業 |
| 家庭・学校・地域等の連携による教育力の向上の推進 | 家庭相談員，こども会育成事業 |
| | 青少年育成竹原市民会議 |
| | 青少年指導員設置事業 |

(3) 歴史・文化財

| 重点的施策 | 点検・評価の対象事業 |
|--------------|-----------------------------|
| 文化財の保存・承継の推進 | 旧森川家住宅調査分析事業 伝統的建造物群保存事業 |
| 文化財の活用の推進 | 文化施設管理運営事業 |
| 歴史資産の普及啓発の推進 | 日本遺産（北前船寄港地）活用事業 |

| 重点的施策 地域とともにある信頼される学校づくりの推進 【学校教育】 | | 担当課 | | | | | | |
|---|---|---------------|--------|-------|--|--------|--------------|--|
| 事業内容 | | 学校教育課 | | | | | | |
| ○学校の自主性・自立性の確立 ○人材育成の推進 ○開かれた学校づくりの推進 | | | | | | | | |
| 事業目標 | | | | | | | | |
| <p>法規法令に則った学校づくり・組織マネジメントを確立し，外部に積極的に情報発信するとともに，市内の全ての小・中・義務教育学校において「地域とともにある学校づくり」を実現するため，学校の運営及び必要な支援に関して協議する機関として学校運営協議会を設置する。</p> <p>また，学校教育の直接の担い手である教職員の指導力向上に取り組む。</p> | | | | | | | | |
| 主要事業 | | | | | | | | |
| コミュニティ・スクール導入事業 〔決算額〕 93千円 | 【事業概要】 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条6にしたがって，学校運営協議会を全ての学校に設置する。 【取組内容】 学校運営協議会の設置を予定している学校において，校内研修や準備委員会に係る指導助言を行い，コミュニティ・スクールの円滑なスタートを支援した。 研修等行いながら，市内全ての学校に学校運営協議会制度を周知した。 【指標】 <table border="1" data-bbox="435 1294 1369 1489"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度末までに，市内4校で学校運営協議会を設置するための準備を完了する。</td> <td>導入校数0校</td> <td>4校において設置準備完了</td> </tr> </tbody> </table> | 項目 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和元年度末までに，市内4校で学校運営協議会を設置するための準備を完了する。 | 導入校数0校 | 4校において設置準備完了 | |
| 項目 | 平成30年度 | 令和元年度 | | | | | | |
| 令和元年度末までに，市内4校で学校運営協議会を設置するための準備を完了する。 | 導入校数0校 | 4校において設置準備完了 | | | | | | |
| 点検結果 | | 達成度 | | | | | | |
| 忠海小学校，忠海中学校，竹原小学校，吉名学園において学校運営協議会の準備委員会を行い，令和2年度スタートの準備ができた。 | | 達成している | | | | | | |
| 今後の取組 | | 今後の方向性 | | | | | | |
| 令和2年度スタートの4校以外の全ての学校に令和3年度までに学校運営協議会を設置する。 | | 拡大・重点化 | | | | | | |

| | | |
|---|--|---------------|
| 重点的施策 地域とともにある信頼される学校づくりの推進 【学校教育】 | | 担当課 |
| 事業内容 | | 学校教育課 |
| ○学校の自主性・自立性の確立 ○人材育成の推進 ○開かれた学校づくりの推進 | | |
| 事業目標 | | |
| <p>法規法令に則った学校づくり・組織マネジメントを確立し、外部に積極的に情報発信するとともに、市内の全ての小・中・義務教育学校において「地域とともにある学校づくり」を実現するため、学校の運営及び必要な支援に関して協議する機関として学校運営協議会を設置する。</p> <p>また、学校教育の直接の担い手である教職員の指導力向上に取り組む。</p> | | |
| 主要事業 | | |
| 教職員の人材育成 〔決算額〕 非予算 | 【事業概要】 研修の実施及び校長ヒアリング等を通じた人材育成 【取組内容】 ・主任層を中心に市主催の研修を実施した。 ・人材育成に関するヒアリングを行い、校長の作成した人材育成計画に基づき、個々の資質・能力に応じた人材育成について助言を行った。 | |
| 点検結果 | | 達成度 |
| 主任層を中心に年間を通じて計画的に研修を実施した。 全職員を対象とした研修を夏季休業中に実施し、大野豊を講師とした全体研修を実施した。 | | ほぼ達成している |
| 今後の取組 | | 今後の方向性 |
| 管理職候補者の育成を進める。 | | 継続 |

| | | |
|---|---|---------------|
| 重点的施策 地域とともにある信頼される学校づくりの推進 【学校教育】 | | 担当課 |
| 事業内容 | | 学校教育課 |
| ○学校の自主性・自立性の確立 ○人材育成の推進 ○開かれた学校づくりの推進 | | |
| 事業目標 | | |
| <p>法規法令に則った学校づくり・組織マネジメントを確立し、外部に積極的に情報発信するとともに、市内の全ての小・中・義務教育学校において「地域とともにある学校づくり」を実現するため、学校の運営及び必要な支援に関して協議する機関として学校運営協議会を設置する。</p> <p>また、学校教育の直接の担い手である教職員の指導力向上に取り組む。</p> | | |
| 主要事業 | | |
| 人材育成の 推進 〔決算額〕 非予算 | <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の直接の担い手である教職員の指導力向上に取り組む。 ・学校経営の参画意識を高め、将来学校経営を担うミドルリーダー層を育成する。 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成計画に基づき、個々の資質・能力に応じた人材育成について助言を行った。 ・市主催の研修を実施し、主任層をはじめミドルリーダー層への学校経営の育成、若手教職員の力量向上を図った。 | |
| 点検結果 | | 達成度 |
| <p>個々の教職員のもつ資質・能力やキャリアを生かした人材育成や適材適所による校務分掌の業務担当が行われている。</p> <p>研修内容を分掌業務や教育活動に生かしたり、学校経営への参画意識を高めたりするなど、主催研修を通して人材育成を進めることができた。</p> | | ほぼ達成している |
| 今後の取組 | | 今後の方向性 |
| <p>管理職候補となるミドルリーダー層の人材を計画的に育成するとともに、学校経営への参画意識をより高める研修内容の工夫改善を図る。</p> <p>また、人材育成計画についてもより個を焦点化し、具体的且つ計画的な育成に努める。</p> | | 継続 |

| | | |
|--|---|---------------|
| 重点的施策 幼保小連携教育の推進【学校教育】 | | 担当課 |
| 事業内容 | | 学校教育課 |
| ○幼保小連携の推進 ○幼保小接続カリキュラムの編成・実施 | | |
| 事業目標 | | |
| 幼児の発達段階に応じた指導と、相互の交流を通じて、就学前教育と小学校以降の教育の円滑な接続を図る | | |
| 主要事業 | | |
| スタート カリキュ ラム 〔決算額〕 非予算 | 【事業概要】 ・スタートカリキュラム策定に関わる指導助言 ・研修の実施 【取組内容】 ・教育研究大会分科会において、スタートカリキュラムの作成について研修会を実施した。 ・また、令和2年度に向けて、全ての学校においてスタートカリキュラムを作成した。 | |
| 点検結果 | | 達成度 |
| 小学校、義務教育学校において令和2年度に向けてスタートカリキュラムを作成することができた。 | | 達成している |
| 今後の取組 | | 今後の方向性 |
| 小学校、義務教育学校においてカリキュラムに係る連携を充実させるとともに、作成した接続カリキュラムを各校で実践し、充実改善を図る。 | | 継続 |

| 重点的施策 「確かな学力」の向上【学校教育】 | | 担当課 | | | | | | | |
|--|---|---------------|-------|-----|----------|-------|-------------|-------|-----|
| 事業内容 | | 学校教育課 | | | | | | | |
| ○基礎学力の定着・向上 ○主体的な学びの創造 ○ICT 活用教育 ○特別支援教育 ○ことばの教育の推進 ○授業改善の推進 | | | | | | | | | |
| 事業目標 | | | | | | | | | |
| 将来社会人として地域に貢献し、豊かな人生を送るために、確かな学力を身に付け、自らの進路を切り拓くことができる教養ある児童生徒を育成する。 | | | | | | | | | |
| 主要事業 | | | | | | | | | |
| 未来の人材育成事業 〔決算額〕 224 千円 | 【事業概要】 ・竹原英語チャレンジの実施 ・イングリッシュキャンプの実施 【取組内容】 ・小学校・義務教育学校第5学年～中学校第1学年・義務教育学校第7学年の児童生徒を対象に英語力を問うテストを行った。 ・小学校・義務教育学校第5学年～中学校第3学年・義務教育学校第9学年を対象に参加を募り、身に付けた英語力を活用するイングリッシュキャンプを行った。 【指標】 | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英語検定 3 級取得率</td> <td>35.5%</td> <td>30%</td> </tr> </tbody> </table> | | | 項 目 | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 英語検定 3 級取得率 | 35.5% | 30% |
| | 項 目 | 平成 30 年度 | 令和元年度 | | | | | | |
| 英語検定 3 級取得率 | 35.5% | 30% | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 点検結果 | | 達成度 | | | | | | | |
| 小中学生等 39 名を対象にイングリッシュキャンプを実施し、英語に対する興味・関心を高めるとともに、英語によるコミュニケーションの楽しさを実感させることができた。 また、英語チャレンジを行った結果、対象児童生徒は、基礎的な英語の力を身に付けることができていた。 英語検定 3 級取得率 10.4% | | 十分でない | | | | | | | |
| 今後の取組 | | 今後の方向性 | | | | | | | |
| 引き続き、取組を進め、児童生徒の英語に対する興味・関心を高めるとともに、英語によるコミュニケーション能力を高め、国際社会で活躍できる人材の育成を図る。 | | 拡大・重点化 | | | | | | | |

| 重点的施策 「確かな学力」の向上【学校教育】 | | 担当課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|------------|------------|--------------------|-------|-------------|------|-------|------------|--------------------|------|-------|------------|------|-------|------------|------|-------|------------|--|
| 事業内容 | | 学校教育課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○基礎学力の定着・向上 ○主体的な学びの創造 ○ICT活用教育 ○特別支援教育 ○ことばの教育の推進 ○授業改善の推進 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業目標 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 将来社会人として地域に貢献し、豊かな人生を送るために、確かな学力を身に付け、自らの進路を切り拓くことができる教養ある児童生徒を育成する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 「学びの変革」全校展開 〔決算額〕 1,205千円 | 【事業概要】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・学力フォローアップ校の指定 ・学力検査の実施 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 【取組内容】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・児童生徒の学力を把握するとともに、課題と取組を明らかにした。 ・課題発見・解決学習の授業づくりやカリキュラムマネジメント等、研究主任を対象とする学力向上に向けた研修を年5回実施した。 ・学力に課題が大きい児童を対象とした実態の把握と課題の背景にある要因を分析し、個に焦点を当てた手立てを研究した。 ・学校訪問指導を行い、主体的、対話的で深い学びの実現に向けて、授業改善を推進した。 ・教育研究大会分科会において、若手教員を対象に授業の匠による模擬授業を行った。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 【指標】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th colspan="2">平成 25 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">全国学力・学習状況調査</td> <td>小国 A</td> <td>65.1%</td> <td>小国 B 52.9%</td> <td rowspan="4">平成 25 年度より 3%以上アップ</td> </tr> <tr> <td>小算 A</td> <td>79.3%</td> <td>小算 B 61.1%</td> </tr> <tr> <td>中国 A</td> <td>74.9%</td> <td>中国 B 66.3%</td> </tr> <tr> <td>中数 A</td> <td>61.7%</td> <td>中数 B 40.5%</td> </tr> </tbody> </table> | 項 目 | 平成 25 年度 | | 令和元年度 | 全国学力・学習状況調査 | 小国 A | 65.1% | 小国 B 52.9% | 平成 25 年度より 3%以上アップ | 小算 A | 79.3% | 小算 B 61.1% | 中国 A | 74.9% | 中国 B 66.3% | 中数 A | 61.7% | 中数 B 40.5% | |
| 項 目 | 平成 25 年度 | | 令和元年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全国学力・学習状況調査 | 小国 A | 65.1% | 小国 B 52.9% | 平成 25 年度より 3%以上アップ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 小算 A | 79.3% | 小算 B 61.1% | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 中国 A | 74.9% | 中国 B 66.3% | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 中数 A | 61.7% | 中数 B 40.5% | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 点検結果 | | 達成度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小国 67% 小算 68% 中国 73% 中数 62% | | ほぼ達成している | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 今後の取組 | 今後の方向性 |
|---|-----------|
| <p>今後も各種研修や授業研究，学校訪問などを通して，授業改善を進めるとともにミドルリーダー候補の育成に努める。</p> <p>また，学力の課題が大きい児童に対し，個の実態に応じた支援の方法や内容を工夫し，学力の向上を図る必要がある。</p> | <p>継続</p> |

| | | | | | | |
|--|--|---------------|-------|----------------|-----------|--|
| 重点的施策 「確かな学力」の向上【学校教育】 | | 担当課 | | | | |
| 事業内容 | | 学校教育課 | | | | |
| ○基礎学力の定着・向上 ○主体的な学びの創造 ○ICT 活用教育 ○特別支援教育 ○ことばの教育の推進 ○授業改善の推進 | | | | | | |
| 事業目標 | | | | | | |
| 将来社会人として地域に貢献し、豊かな人生を送るために、確かな学力を身に付け、自らの進路を切り拓くことができる教養ある児童生徒を育成する。 | | | | | | |
| 主要事業 | | | | | | |
| 学校 ICT 活用 教育推進事業 〔決算額〕 31,604 千円 | 【事業概要】 ・タブレット型端末及び電子黒板等 ICT 機器整備 ・ICT 支援員の配置 【取組内容】 ・機器の整備と併せて、プログラミング教育の実践など ICT 機器の活用事例を普及するための研修を年間 3 回行った。 ・ICT 支援員を 1 名配置し、授業支援等を行った。 ・タブレット及び電子黒板を活用した授業実践を充実させた。 【指標】 | | | | | |
| | <table border="1"> <tr> <td>項 目</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>ICT 活用授業（週時間数）</td> <td>週 20 時間以上</td> </tr> </table> | 項 目 | 令和元年度 | ICT 活用授業（週時間数） | 週 20 時間以上 | |
| | 項 目 | 令和元年度 | | | | |
| ICT 活用授業（週時間数） | 週 20 時間以上 | | | | | |
| | | | | | | |
| 点検結果 | | 達成度 | | | | |
| タブレット型端末の活用調査では、活用時間が週あたり 22 時間であった。タブレット型端末を整備したことにより ICT を効果的に活用した授業展開が広く行われるようになり、活用場面も広がっている。プログラミング教育の実践や遠隔授業についても取り組んでいる。 また、ICT 活用教育先進地域として、他市町からも注目されている。 | | 達成している | | | | |
| 今後の取組 | | 今後の方向性 | | | | |
| ICT 支援員を計画的に各校に配置し、ICT 機器を活用した授業実践を充実させる。 | | 継続 | | | | |

| | | |
|--|---|---------------|
| 重点的施策 「確かな学力」の向上【学校教育】 | | 担当課 |
| 事業内容 | | 学校教育課 |
| ○基礎学力の定着・向上 ○主体的な学びの創造 ○ICT活用教育 ○特別支援教育 ○ことばの教育の推進 ○授業改善の推進 | | |
| 事業目標 | | |
| 将来社会人として地域に貢献し、豊かな人生を送るために、確かな学力を身に付け、自らの進路を切り拓くことができる教養ある児童生徒を育成する。 | | |
| 主要事業 | | |
| 特別支援教育 〔決算額〕 159千円 | 【事業概要】 特別支援教育相談委員会の開催 【取組内容】 特別支援教育相談委員会規則に基づき、幼児・児童・生徒が適切な教育を受けられるよう就学指導を行った。 | |
| 点検結果 | | 達成度 |
| 特別な支援が必要と思われる幼児・児童・生徒が、適切な教育を受けるために専門的見地から就学指導を行うため、特別支援教育相談委員会において協議している。 | | 達成している |
| 今後の取組 | | 今後の方向性 |
| 幼児・児童・生徒が適切な教育を受けられるよう継続する | | 継続 |

| | | | |
|---|--|-------------------|------------------|
| 重点的施策 「豊かな心」の育成【学校教育】 | | 担当課 | |
| 事業内容 | | 学校教育課 | |
| ○体験活動の充実 ○道徳教育の充実 ○生徒指導の充実 ○伝統・文化等に関する教育の推進 ○キャリア教育の推進 | | | |
| 事業目標 | | | |
| 規範意識を育て、思いやりや自律の心を身に付けた児童生徒を育成する。 | | | |
| 主要事業 | | | |
| 生徒指導 支援員 〔決算額〕 3,754 千円 | 【事業概要】 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導支援員の配置 ・教育相談事業の実施 | | |
| | 【取組内容】 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校，義務教育学校に生徒指導支援員を配置し，学校の生徒指導に係る組織的な対応を支援した。 ・教育相談室や民間企業委託によって不登校等に対する相談業務を行った。 | | |
| | 【指標】 | | |
| | 項 目 | 平成 30 年度 | 令和元年度 |
| | 不登校児童生徒の割合 | 小 0.09% 中 2.3% | 小 0.1% 中 2.0% |
| 点検結果 | | 達成度 | |
| <p>生徒指導支援員が各中学校及び義務教育学校を巡回し，生徒の問題行動への指導やその対応に係る教職員への支援を行うことができた。また，教育相談室では，不登校傾向にある生徒の相談や学習支援等を行い，生徒の立ち直りに向けた取組を進めることができた。</p> <p>不登校児童の割合：小 0.1% 不登校生徒の割合：中 1.6%</p> | | 達成している | |
| 今後の取組 | | 今後の方向性 | |
| <p>生徒指導支援員や教育相談室等と学校とが一層連携し，問題行動の背景を的確に把握して対応するとともに，家庭への支援についても取り組む必要がある。</p> | | 継続 | |

| | | |
|---|--|---------------|
| 重点的施策 「豊かな心」の育成【学校教育】 | | 担当課 |
| 事業内容 | | 学校教育課 |
| ○体験活動の充実 ○道德教育の充実 ○生徒指導の充実 ○伝統・文化等に関する教育の推進 ○キャリア教育の推進 | | |
| 事業目標 | | |
| 規範意識を育て、思いやりや自律の心を身に付けた児童生徒を育成する。 | | |
| 主要事業 | | |
| 竹原市キャリアスタートウィークの実施 〔決算額〕 20 千円 | 【事業概要】 <ul style="list-style-type: none"> ・中学生キャリアスタートウィークの実施 ・市内中学生を対象とした広島交響楽団による音楽鑑賞会の実施 ・竹原市道德推進協議会の実施 【取組内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・中学生キャリアスタートウィークを実施した。 ・市内中学生を対象とした広島交響楽団による音楽鑑賞会を実施した。 ・県指導主事を招聘し、竹原市道德教育推進協議会を年2回実施した。研究授業、協議、講話により、道德科の授業づくりについての研修を深めた。 | |
| 点検結果 | | 達成度 |
| キャリアスタートウィーク等の実施により、キャリア教育の充実に結びついている。 | | 達成している |
| 今後の取組 | | 今後の方向性 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・中学生キャリアスタートウィークの実施 ・竹原市道德推進協議会の実施 ・体験活動、文化芸術活動 | | 継続 |

| | | | |
|---|--|---|-----------------------|
| 重点的施策 「健やかな体」の育成【学校教育】 | | 担当課 | |
| 事業内容 | | 学校教育課 | |
| ○健康教育の充実 ○体力づくりの充実 ○食育の充実 | | | |
| 事業目標 | | | |
| 健やかな心身の発達のために、体力づくりや食育を計画的に推進する。 | | | |
| 主要事業 | | | |
| 体力テストの 分析を通じた 指導の工夫改 善 〔決算額〕 280 千円 | 【事業概要】 体力テスト事業の実施 | | |
| | 【取組内容】 体力テストを実施するとともに、その結果を分析し、授業や行事等の取組に生かし、児童生徒の体力の向上を図った。 | | |
| | 【指標】 | | |
| | 項 目 | 平成 24 年度 | 令和元年度 |
| | 体力テストの国及び県の平均以上の 種目の割合 | 対広島県 小 89% 中 53% 対全国 小 86% 中 57% | 平成 24 年度より 3%以上アップ |
| 点検結果 | | | 達成度 |
| 市内全校 1 学期に体力テストを行い、その結果を分析し、児童生徒の実態に応じた体力づくり改善計画を作成して 2 学期からの授業等の取組に生かすことができた。 対広島県 小 91.7% 中 52.1% 対全国 小 86.5% 中 43.8% | | | 十分でない |
| 今後の取組 | | | 今後の方向性 |
| 自校の児童生徒の課題の的確な分析と、成果の上がる改善計画の作成・実施が必要である。特に、中学校及び義務教育学校後期課程において改善が必要である。また、保健体育の授業以外にも部活動や学校行事等における体力づくりの実践を進める必要がある。 | | | 継続 |

| | | |
|---|--|---------------|
| 重点的施策 充実した環境づくり【学校教育】 | | 担当課 |
| 事業内容 | | 教育振興課 |
| ○小中一貫教育の推進 ○学校の適正配置 | | 学校教育課 |
| 事業目標 | | |
| 学校施設の修繕，小中一貫教育の推進，学校規模の適正化など充実した教育環境の整備に努める。 | | |
| 主要事業 | | |
| 小中一貫教育の推進 〔決算額〕 非予算 | 【事業概要】 9年間の見通した指導を徹底するため，小中一貫教育に取り組む。 【取組内容】 ・平成30年4月より義務教育学校吉名学園が開校し，特色ある学校づくりを進めた。 ・竹原中学校区及び賀茂川中学校区については，引き続き連携型小中一貫教育を行った。 ・また，小中一貫ネットワーク会議に参加し，他市町の好事例を参考に取組んだ。 | |
| 点検結果 | | 達成度 |
| 義務教育学校吉名学園については，行事や教育活動の統合・精選など，明らかになった課題を学校全体で解決しつつ，スムーズな学校運営を行うことができている。竹原中学校区及び賀茂川中学校区においても，定期的に小中一貫教育に関する会を開催し，組織的に取組みを進めることができている。 | | 達成している |
| 今後の取組 | | 今後の方向性 |
| コミュニティ・スクールの導入に向けて，小中一貫教育の取組についてはコミュニティ・スクールの取組と関連を図りながら進める。 | | 継続 |

| | | | |
|---|---------------|---|-----------|
| 重点的施策 生涯学習拠点・機会の充実【生涯学習・青少年育成】 | | 担当課 | |
| 事業内容 | | 教育振興課 地域づくり課 | |
| ○拠点施設の周知広報と学校や文化活動団体等との連携による 利用促進 ○地域課題やニーズに応じた講座等の提供 | | | |
| 事業目標 | | | |
| 市民が生涯学習に取り組む機会を創出し、市民のニーズを満たす学習内容の提供に努めるために生涯学習拠点・機会の充実に取り組む。 | | | |
| 主要事業 | | | |
| 地域交流センター運営事業 〔決算額〕 61,907千円 | 【事業概要】 | 個人の学びに加え、社会ニーズも踏まえた学びを実践するとともに、その学びの成果を活用し、社会全体の教育力を向上させるため、地域交流センターにおいて各種講座、教室等を実施する。 | |
| | 【取組内容】 | 各地域交流センターの創意工夫のもと、地域文化の伝承、教養の向上、体育レクリエーション、家庭教育、ボランティア育成などの講座を実施した。 また、地域住民が講師になり、自治会、協働組織とも連携を行うなど、様々な人材の活用の取組を行った。 | |
| | 【指標】 | | |
| | | 項 目 | 平成 30 年度 |
| | 地域交流センター利用者数 | 122,920 人 | 110,241 人 |
| 図書館運営事業 〔決算額〕 36,174千円 | 【事業概要】 | 市民生活や教養、芸術文化の向上に資する書籍等を収集し、それらを市民に広く提供することにより、市民の生涯学習環境を充実させる。 | |
| | 【取組内容】 | 多種多様な市民のニーズに合った資料を迅速かつ的確に収集し、利用しやすい読書環境の整備を行った。 また、移動図書館車で市内の福祉施設や市内小中義務教育学校・保育所等を含む 38 ステーションの巡回、ボランティア研修会や絵本の会・読書会、他課との連携のもと、ブックスタート支援等を行った。 | |
| | 【指標】 | | |
| | | | 平成 30 年度 |
| | 図書館利用者数 | 38,987 | 40,208 |

| <p>竹原市総合文化祭開催事業 〔決算額〕 374 千円</p> | <p>【事業概要】 市内の芸術文化活動の推進を図るため、竹原市文化団体連盟と共催し、総合文化祭を開催する。</p> <p>【取組内容】 竹原市文化団体連盟と連携し、竹原市総合文化祭を開催して、舞台・展示発表等の機会および鑑賞の機会を提供するとともに、芸術文化振興の向上に寄与した。</p> <p>【指標】</p> <table border="1" data-bbox="427 651 1366 752"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加団体数</td> <td>26</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table> | | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 参加団体数 | 26 | 24 |
|--|--|-------|----------|-------|------------|-------|-------|
| | 平成 30 年度 | 令和元年度 | | | | | |
| 参加団体数 | 26 | 24 | | | | | |
| <p>竹原市立学校児童生徒図画書道展開催事業 〔決算額〕 401 千円</p> | <p>【事業概要】 児童生徒の芸術文化活動の活性化を図るとともに、芸術に対する親しみと心の豊かさを育むため、竹原市立学校児童生徒図画書道展を開催する。</p> <p>【取組内容】 市内各小・中・義務教育学校、竹原市美術協会との連携により、図画・書道展を開催し、児童生徒が文化芸術に触れ合う機会を確保し、心の豊かさの向上に寄与した。</p> <p>【指標】</p> <table border="1" data-bbox="427 1155 1366 1256"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図画・書道展応募者数</td> <td>2,362</td> <td>2,587</td> </tr> </tbody> </table> | | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 図画・書道展応募者数 | 2,362 | 2,587 |
| | 平成 30 年度 | 令和元年度 | | | | | |
| 図画・書道展応募者数 | 2,362 | 2,587 | | | | | |
| <p>点検結果</p> | <p>達成度</p> | | | | | | |
| <p>地域交流センターの人数については、依然減少傾向であるが、その他の施設等の利用人数については、横ばい又は増加傾向で推移している。</p> | <p>ほぼ達成している</p> | | | | | | |
| <p>今後の取組</p> | <p>今後の方向性</p> | | | | | | |
| <p>関係課、関係団体と連携を取りながら、環境の充実及び利用者増に向けた取組を行っていく。</p> | <p>継続</p> | | | | | | |

| | | | |
|--|--|------------|----|
| 重点的施策 学校と地域の協働による生涯学習の推進 【生涯学習・青少年育成】 | | 担当課 | |
| 事業内容 | | 教育振興課 | |
| ○学校と地域の連携強化による生涯学習環境の充実 ○生涯学習を通じた地域活動の担い手の育成 | | | |
| 事業目標 | | | |
| 学びの成果を地域社会に還元し、地域の活力を高めるため、地域活動を担っていく人材の育成に取り組む。 | | | |
| 主要事業 | | | |
| 学びから始まる地域づくりプロジェクト (県モデル事業) | 【事業概要】 地域住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点である地域交流センターが、行政や地域の関係機関・団体等と連携・協働して地域課題に対応した学習機会を提供し、学びを通じた地域づくりの活動を促進できるよう、支援を行う。 【取組内容】 令和元年度は、職員の社会教育主事の任用資格取得や研修受講など、職員の資質向上を図った。 令和2年度は、県モデル事業として、地域交流センター等の拠点施設において、地域団体同士(学校運営協議会を含む)の連携を図りながら、地域課題について自ら考えていくための教材等の作成に取り組む。 令和3年度以降に実際に地域で実践を行い、実践結果の検証等を実施しながら、PDCAサイクルを回していく予定としている。 | | |
| [決算額] 非予算 | | | |
| 文化芸術体験等事業 [決算額] 5千円 | 【事業概要】 地域住民や児童生徒を対象に、もの作りの楽しさや芸術に関心を持ってもらうことを目的として、講座の開催等を行う。 【取組内容】 竹原市文化団体連盟と連携し、美術体験講座を開催したり、各活動団体が主となって、学校において生花・琴・舞踊等を指導し、学校との合同発表会を開催するなど、もの作りの楽しさや芸術に関心を持ってもらい、文化芸術を後世に伝えていく取組を行っている。 【指標】 | | |
| | | 平成30年度 | |
| | | 令和元年度 | |
| | 美術体験講座参加者数 | 18 | 19 |

| 点検結果 | 達成度 |
|---|---------------------------|
| <p>職員の資質向上など，地域との連携に向けた下準備を行うとともに，学校等との連携を図った。</p> | <p>－ (評価は令和3年度以降)</p> |
| 今後の取組 | 今後の方向性 |
| <p>各団体等の連携をさらに強化し，一体となった学校づくり，地域づくりを進めていけるよう，取組を強化する。</p> | <p>拡大・重点化</p> |

| 重点的施策 スポーツ・芸術の振興【生涯学習・青少年育成】 | | 担当課 | | | | | | |
|---|--|----------|-------|----------|-------|--------------|----|----|
| 事業内容 | | 教育振興課 | | | | | | |
| <p>○普及，指導団体を担う人材の育成</p> <p>○各種スポーツ・文化芸術イベントの開催</p> | | | | | | | | |
| 事業目標 | | | | | | | | |
| スポーツ・芸術文化の普及，指導団体を担う人材の育成に取り組むとともに，豊かなスポーツライフ，文化・芸術振興に向けた環境の充実に努める。 | | | | | | | | |
| 主要事業 | | | | | | | | |
| スポーツ推進 委員活動事業 〔決算額〕 295 千円 | <p>【事業概要】</p> <p>スポーツの振興のため，地域住民に対しスポーツの実技指導，その他スポーツに関する指導・助言を行う。また，各種研修会・研究大会等にも参加し，相互の情報交流と資質の向上を図る。</p> <p>【取組内容】</p> <p>県内で開催された各種研修会等に参加し，スポーツ基本法の知識習得や国の動向などの最新の情報把握に努めた。また，竹原駅伝競走大会等の各種スポーツ大会の運営協力などを行った。</p> <p>今年度は新たな取組として，地域交流センターでパラスポーツ（ポッチャ）体験教室を実施し，小学生から高齢者まで幅広い年代に対し，パラスポーツの普及を図った（約 40 名参加）。</p> <p>【指標】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各種研修会参加者数（延）</td> <td>10</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> | | | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 各種研修会参加者数（延） | 10 | 14 |
| | | 平成 30 年度 | 令和元年度 | | | | | |
| 各種研修会参加者数（延） | 10 | 14 | | | | | | |
| トップアスリート等スポーツ教室 〔決算額〕 203 千円 | <p>【事業概要】</p> <p>子供たちがスポーツを通じて夢や目標をもち，取組むことにより，競技力の向上を目指すとともに，様々なスポーツに触れる機会を提供する。加えて，指導者もトップ選手等の指導方法を学び，指導力の向上・育成にもつなげるとともに競技団体の組織強化と地域の競技活動の促進を図る。</p> <p>【取組内容】</p> <p>NPO 法人トップス広島との協力を得ながら，加盟団体の選手によるスポーツ教室・講習会を開催する。令和元年度は，竹原市軟式野球連盟との協力のもと，広島東洋カープOBによる野球教室を開催した（66 名参加）。</p> <p>また，市が包括連携協定をしている広島ドラゴンフライズのスクールコーチを招き，バスケットボールの体験会を開催した（56 名参加）。</p> <p>パラスポーツ関係の取組として，現役のパラアスリートを招き，車いすバスケ体験教室を開催した（40 名参加）。</p> | | | | | | | |

| | <p>【指標】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トップアスリートスポーツ教室参加者数</td> <td>32</td> <td>162</td> </tr> </tbody> </table> | | 平成 30 年度 | 令和元年度 | トップアスリートスポーツ教室参加者数 | 32 | 162 | | | | | | | | | |
|---|--|-------|----------|-------|--------------------|----|-----|------------|-------|-------|----------------|----|----|----------------|-----|-----|
| | 平成 30 年度 | 令和元年度 | | | | | | | | | | | | | | |
| トップアスリートスポーツ教室参加者数 | 32 | 162 | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>各種大会等開催事業 〔決算額〕 4,467 千円</p> | <p>【事業概要】 市民が様々なスポーツに触れる機会を創出するとともに、競技力の向上、健康増進等を目的として、各種大会等を開催する。</p> <p>【取組内容】 竹原山岳会、竹原市体育協会、竹原市陸上競技協会等と連携し、市民体育大会、竹原駅伝競走大会等を開催した。</p> <p>【指標】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民ハイキング参加者数</td> <td>46</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>市民体育大会参加者数</td> <td>1,244</td> <td>1,261</td> </tr> <tr> <td>竹原駅伝競走大会参加チーム数</td> <td>32</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>竹原ロードレース大会参加者数</td> <td>756</td> <td>800</td> </tr> </tbody> </table> | | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 市民ハイキング参加者数 | 46 | 48 | 市民体育大会参加者数 | 1,244 | 1,261 | 竹原駅伝競走大会参加チーム数 | 32 | 25 | 竹原ロードレース大会参加者数 | 756 | 800 |
| | 平成 30 年度 | 令和元年度 | | | | | | | | | | | | | | |
| 市民ハイキング参加者数 | 46 | 48 | | | | | | | | | | | | | | |
| 市民体育大会参加者数 | 1,244 | 1,261 | | | | | | | | | | | | | | |
| 竹原駅伝競走大会参加チーム数 | 32 | 25 | | | | | | | | | | | | | | |
| 竹原ロードレース大会参加者数 | 756 | 800 | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>竹原市美術展開催事業 〔決算額〕 224 千円</p> | <p>【事業概要】 市民の芸術文化活動の推進を図るため、竹原市美術協会と共催により、展示・鑑賞の機会を提供できる展示会を実施する。</p> <p>【取組内容】 広く市民から美術作品を公募し、創作活動を奨励するとともに、鑑賞の機会を提供することとし、竹原市美術展を開催した。</p> <p>【指標】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市美展応募者数</td> <td>43</td> <td>52</td> </tr> </tbody> </table> | | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 市美展応募者数 | 43 | 52 | | | | | | | | | |
| | 平成 30 年度 | 令和元年度 | | | | | | | | | | | | | | |
| 市美展応募者数 | 43 | 52 | | | | | | | | | | | | | | |
| 点検結果 | 達成度 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 文化・スポーツイベントの参加者数については、ほとんどが横ばいで推移している。今年度は、スポーツイベントの新たな取組を行い、スポーツに触れ合う機会の拡充に努めた。これまでのつながりを生かした関係諸団体との連携等による人材育成を進めていく必要がある。 | 十分ではない | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今後の取組 | 今後の方向性 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関係諸団体との連携等により、引き続き市民が文化・スポーツに触れ合う機会を創出するとともに、それらを担う人材の育成に取り組んでいく。 | 継続 | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|--|---|---------------|-------|
| 重点的施策 家庭・学校・地域等の連携による教育力向上の推進 | | 担当課 | |
| 【生涯学習・青少年教育】 | | | |
| 事業内容 | | 社会福祉課 | |
| ○子育てに関する学習機会の提供による家庭教育力の向上 | | 教育振興課 | |
| 事業目標 | | | |
| 子供が家庭で社会生活に適応するために必要な生活習慣などを身につけながら健やかに成長していけるよう、ニーズに応じた養育支援や子供への直接支援を関係機関と連携して行い、家庭教育力の向上を図ります。 | | | |
| 主要事業 | | | |
| 家庭相談員 〔決算額〕 5,275千円 | 【事業概要】 ・養育に課題がある家庭の子供の権利を守るため、家庭相談員が関係者と連携を図りながらその保護者等への相談・指導を行う。 ・子ども会育成団体の自主運営の促進及び子ども会活動の円滑な運営を推進し、児童の健全育成を図る。 | | |
| 子ども会育成事業 〔決算額〕 126千円 | 【取組内容】 ・3名の家庭相談員が養育に課題がある家庭を適宜訪問し、相談・指導を行った。 ・子ども会育成事業として、6月下旬にバンブースポーツクラブの職員を講師に招き、遊びを通しての親子での体力づくりの実技研修会を開催し、1月下旬に、学生ボランティアを講師に招き、創造性豊かな子供を育むため、工作体験を行う子ども創作大会を開催した。 | | |
| | 【指標】 | | |
| | 項 目 | 平成30年度 | 令和元年度 |
| | 児童相談件数 | 241件 | 157件 |
| | 子ども会育成事業の参加児童数 | 38名 | 62名 |
| 点検結果 | | 達成度 | |
| 関係機関との情報連携を行うことで養育に課題がある家庭を的確に把握し、家庭相談員が保護者に子育てに関する指導を行うなど、家庭教育力の向上を図った。その他、子育てに関して保護者同士が語り学び合う「親の力」をまなびあう学習プログラム」を実施している。 | | 達成している | |
| 今後の取組 | | 今後の方向性 | |
| 引き続き家庭相談員を継続的に配置し、養育に課題がある家庭に関わりながら青少年の健全な育成を図る。子ども会育成事業については、子ども会加入児童数が減少傾向にあるため、事業の見直しを行う。 | | 改善 | |

| | | | |
|--|---|---------------|-------|
| 重点的施策 家庭・学校・地域等の連携による教育力向上の推進 【生涯学習・青少年教育】 | | 担当課 | |
| 事業内容 | | 社会福祉課 | |
| ○家庭，学校，地域等の連携による地域全体の教育力の向上 | | | |
| 事業目標 | | | |
| 青少年が心身ともに健やかに成長し，自らが持つ個性や能力を活かして社会で自立できるように，家庭や学校，地域などの連携による教育力の向上を図ります。 | | | |
| 主要事業 | | | |
| 青少年育成竹原市民会議 [決算額] 236千円 | 【事業概要】 ・子供たちが，相手の立場や心情に共感する力，論理的に物事を考える力，自分の主張を正しく伝える力，広い視野と柔軟な発想や創造性などを身につける機会とすることを目的とする，中学生を対象とした話し方大会を開催した。 ・学校外における青少年の問題行動が発生しやすい時機に，学校や警察関係機関等との連携のもと巡回を行う。 | | |
| 青少年指導員設置事業 [決算額] 125千円 | 【取組内容】 ・市内の各中学校を代表する12名の生徒が，社会や世界に向けた意見や，未来への希望や提案などを発表する話し方大会を，6月上旬に開催した。 ・青少年指導員が各中学校区のグループごとに青少年の問題行動が発生しやすい祭りの後などに巡回し，街頭指導を行った。 | | |
| | 【指標】 | | |
| | | 平成30年度 | 令和元年度 |
| | 話し方大会参加生徒数 | 12名 | 12名 |
| | 巡回指導回数 | 20回 | 20回 |
| 点検結果 | | 達成度 | |
| 竹原市中学生話し方大会を開催し，市内4中学校からそれぞれ選ばれた12名の生徒が，未来への希望や提案などの意見発表を行った。 中学校区ごとに配置する指導員が，住吉まつりや竹原花火大会の終了後に巡回を行い，巡回中に発見した青少年に帰宅を促すなど街頭指導を行った。 | | 達成している | |
| 今後の取組 | | 今後の方向性 | |
| 引き続き家庭や学校，地域などと連携した同様の取り組みを通じて，青少年の心身の健やかな成長を促し，地域を支え，世界中で活躍する人材を育成する。 | | 継続 | |

| 重点的施策 文化財の保存・継承の推進【歴史・文化財】 | | 担当課 | |
|---|-------------------------------------|--|----------|
| 事業内容 | | 教育振興課 | |
| ○文化財及び歴史資料の調査・記録 ○文化財の指定・登録による保存・継承 ○町並み保存地区における伝統的建造物の保存修理と修景による歴史的景観の保全 | | | |
| 事業目標 | | | |
| 文化財及び歴史資料の調査・記録を実施するとともに、文化財指定・登録等により後世への保存・継承を図る。 | | | |
| 主要事業 | | | |
| 旧森川家住宅 調査分析事業 〔決算額〕 998 千円 | 【事業概要】 | 旧森川家住宅（市重要文化財）について、文化財的価値を明らかにするとともに、今後の保存・活用方針を検討するため、調査を行った。 | |
| | 【取組内容】 | 今年度は旧森川家住宅の建物の実測調査等を行い、来年度以降も調査を継続する。 | |
| | 【指標】 | | |
| | | 項 目 | 平成 30 年度 |
| | 国・県・市指定及び登録文化財件数(合計) | 34 件 | 34 件 |
| 伝統的建造物 群保存事業 〔決算額〕 20,400 千円 | 【事業概要】 | 町並み保存地区を保存し、後世に継承するため、建造物の修理を実施した。 | |
| | 【取組内容】 | 市所有の旧吉井家住宅（平成 30 年度に市重要文化財に指定）の修理を実施するとともに、民間所有の建物の修理に対して補助を行った。 | |
| | 【指標】 | | |
| | | 項 目 | 平成 30 年度 |
| | 伝統的建造物群保存地区における保存修理・修景事業の延べ実施件数（累計） | 149 件 | 153 件 |
| 点検結果 | | 達成度 | |
| 文化財の調査や町並み保存地区内での建造物の修理等に取り組んだ結果、文化財の保存・継承を図ることができた。 | | 達成している | |
| 今後の取組 | | 今後の方向性 | |
| 引き続き、文化財の保存・継承を図るため、文化財の調査や建造物の修理等に取り組む。 | | 継続 | |

| 重点的施策 文化財の活用の推進【歴史・文化財】 | | 担当課 | | | | | | | |
|---|--|--|--|-----|----------|-------|---------------|-------|-------|
| 事業内容 | | 教育振興課 | | | | | | | |
| ○文化財の公開活用の促進 ○文化財の適正な維持管理 ○歴史的建造物の活用に向けた取組 | | | | | | | | | |
| 事業目標 | | | | | | | | | |
| 町並み保存地区をはじめとする文化財を適切に維持し、文化財の公開活用に取り組む。 | | | | | | | | | |
| 主要事業 | | | | | | | | | |
| 文化施設管理 運営事業 〔決算額〕 9,485 千円 | 【事業概要】 伝統的建造物を活用し、文化財に対する意識向上を図るため、文化施設の公開を行うとともに、管理運営方法の見直しを行った。 【取組内容】 指定管理者制度により文化4施設（旧松阪家住宅・旧光本家住宅・旧森川家住宅・竹原市歴史民俗資料館）の公開を行うとともに、直営に変更するための手続や準備を進めた。 【指標】 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化4施設入館者数（延べ）</td> <td>41 千人</td> <td>45 千人</td> </tr> </tbody> </table> | | 項 目 | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 文化4施設入館者数（延べ） | 41 千人 | 45 千人 |
| 項 目 | 平成 30 年度 | 令和元年度 | | | | | | | |
| 文化4施設入館者数（延べ） | 41 千人 | 45 千人 | | | | | | | |
| 点検結果 | | 達成度 | | | | | | | |
| 文化施設の公開等に取り組んだ結果、一定の程度は文化財を活用することができたが、指定管理者による管理運営の課題を踏まえ、伝統的建造物の保存のあり方や新たな活用に向けて再構築していく必要がある。 | | ほぼ達成している | | | | | | | |
| 今後の取組 | | 今後の方向性 | | | | | | | |
| 来年度から直営により文化施設の公開を行う。 その上で、老朽化した建物の修理や特性を生かした活用方法の検討を進めるとともに、収支の改善にも取り組む。 | | 改善 | | | | | | | |

| 重点的施策 歴史資産の普及啓発の推進【歴史・文化財】 | | 担当課 | | | | | | |
|--|---|---------------|-----|----------|-------|------------------------------------|-------|-------|
| 事業内容 | | 教育振興課 | | | | | | |
| ○歴史・文化財に関する講座等の開催による普及啓発 ○文化財に関する情報発信 | | | | | | | | |
| 事業目標 | | | | | | | | |
| 本市の歴史や文化財などの歴史資産に対する誇りや愛着を醸成するため、本市の歴史資産の普及啓発を実施し、次世代育成に努める。 | | | | | | | | |
| 主要事業 | | | | | | | | |
| 日本遺産（北前船寄港地）活用事業 〔決算額〕 1,976 千円 | 【事業概要】 文化財を通じて歴史的魅力や特色を発信するため、日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の追加認定を受け、様々な事業を実施した。 | | | | | | | |
| | 【取組内容】 認定記念行事（セレモニー・講演会）を実施するとともに、北前船と竹原の歴史を紹介する特別展を開催した。 また、子供たちに伝統産業の製塩業や北前船を知ってもらうため、たけはら歴史体験講座を開催した。 | | | | | | | |
| | 【指標】 | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市内小学校等の文化 4 施設の社会科見学等による児童来館者数（延べ）</td> <td>247 人</td> <td>102 人</td> </tr> </tbody> </table> | | 項 目 | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 市内小学校等の文化 4 施設の社会科見学等による児童来館者数（延べ） | 247 人 | 102 人 |
| 項 目 | 平成 30 年度 | 令和元年度 | | | | | | |
| 市内小学校等の文化 4 施設の社会科見学等による児童来館者数（延べ） | 247 人 | 102 人 | | | | | | |
| 点検結果 | | 達成度 | | | | | | |
| 日本遺産の認定を受け、様々な事業に取り組んだ結果、歴史資産の普及啓発を進めることができた。 | | 達成している | | | | | | |
| 今後の取組 | | 今後の方向性 | | | | | | |
| 引き続き、歴史資産の普及啓発を進めるため、歴史・文化財に関する講座の開催や情報発信等に取り組む。 | | 継続 | | | | | | |

5 評価委員の評価

【評価委員】

| | |
|----------------------------|---------|
| 広島大学客員准教授 | 佐々木 哲 夫 |
| 元広島県尾三教育事務所長，元公立学校長 | 前 原 直 樹 |
| 竹原市 PTA 連合会会長，豊竹 PTA 連合会会長 | 辰 己 寛 |
| 東広島竹原人権擁護委員協議会副会長 | 原 田 千 鳥 |
| 奥田元宋・小由女美術館長 | 植 田 千佳穂 |

教育委員会の事務の点検及び評価を行うにあたり，令和2年8月6日に学識経験者5名により，次のとおり点検及び評価をいただきました。

I 総括的な意見

今日、グローバル化や高度情報化、知識基盤社会が世界規模で加速度的に進展する中、我が国においては、新しい価値やサービスを創出する Society（ソサエティ）5.0 の実現が謳われ、その一方途として近い将来を担う子供たちに対し、全ての人とモノがつながる IoT（Internet of Things）や人工知能（AI）環境の中で諸課題を解決し逞しく生き抜く力の育成が要請されている。

一方で、新型コロナ禍や自然災害など予測不可能な憂慮すべき事態が立て続けに生起し、それに伴い、政治、経済、教育、福祉等、広範な分野に及ぶ諸課題が深刻化の途を辿っている。こうした現状において、改めて社会全体が教育に依存しており、学校が社会構造を下支えしていることが明らかになってきた。また、全国津々浦々、少子高齢化や過疎化等に伴う社会コミュニティの衰退が顕在化し、地域創生が喫緊の課題として学校教育や生涯学習に対し大きな期待が寄せられている。具体的には、子供たちに生き抜く力と連絡した社会的包摂（social inclusion）を基軸とする持続可能な社会を築く資質・能力を身に付けさせることが求められている。

竹原市教育委員会におかれては、昨年度、こうした時代の趨勢を見極めつつ第6次竹原市総合計画の策定に基づき新たに竹原市教育大綱等を定められ、進取果敢に教育施策を展開されている。具体的には、グローバル化、高度情報化等を視野に入れた「ICT活用教育」

や「英語教育」の推進である。一方、本市の先人が創り上げた掛け替えのない文化、伝統、歴史を大切にしつつ、持続可能な本市の未来を標榜した地域とともにある学校づくりを駆動する「コミュニティ・スクール」のシステムの導入等である。双方ともに時宜を得た施策として大いに評価できる。

昨年度の児童生徒の学習指導上及び生徒指導上の各種データは総じて上昇傾向にあり、本市教育委員会の各種事業の手堅い遂行及び市内各小・中学校・義務教育学校（以下「各市立学校」と表記）に対する緻密な指導の賜物と考える。

一方、各事業での数値指標に基づく自己評価について、母集団の標本数が少ない中での国や県との数値比較による有意性の如何の判断は、統計学上客観性が担保できないおそれがあるため一考を要する。

また、全事業を俯瞰した時、防災教育等、危機管理からのアプローチがやや不十分であるように推察する。でき得れば次年度以降の各事業における検討をお願いしたい。

なお、前年度の本評価委員会の意見等も参考にされつつ、真摯に各事業を精査され改善を図られていることに深く敬意と感謝を表す。今後も引き続き、本市の総合計画、教育大綱等に依拠した複数部署にまたがる未来志向のシステムづくり及びマネジメントの遂行を期待する。

以下については、本市教育委員会が所管されている令和元年度各事業の内特筆すべきものを抽出し評釈するものである。

II 各事業に対する意見

【コミュニティ・スクール導入事業】

市内 4 小・中・義務教育学校での学校運営協議会の試行による課題の洗い出しにより、市立全校実施に向けての方向性を確かなものにされたことは高く評価できる。各市立学校での学校教育活動を概観すると、各学校とも長年にわたって地域実態に応じ密接な連携が図られており、円滑な導入が図られると考える。

なお、本システムは、往々にして「支援・協力型」の地域とともにある学校づくりに留まる事例が全国各地で散見される。本市教育委員会、各市立学校におかれては、本来の目的である「協働・共創型」の地域とともにある学校づくりを目指されることを切望するものである。具体的には、学校と家庭・地域社会が「持ちつ持たれつ」の対等の関係の中で新たなコミュニティと学びを創り出すというものである。学校が家庭・地域社会からエネルギーをもらいつつ、一方で地域に住む人たちも学校からエネルギーをもらう関係となる、互助、共助の持続可能な社会を創造する関係づくりが望まれる。各学校での創造的なカリキュラム・マネジメントの遂行が緊要なミッションになると考える。

【教職員の人材育成事業・人材育成の推進事業】

両事業ともに、本市教育委員会主催の研修等により、教職員の人材育成に係り成果が上がりつつあることが見て取れる。ただ、第三者からは本 2 事業の峻別が書面上では見えにくく、整理、検討の余地もあると考える。

また、平成 28 年の教特法改正により都道府県教育委員会等による教員育成指標が策定されている。本市教育委員会におかれては、今後人材育成をより堅実なものとするため、各市立学校の管理職、教職員への周知及び活用について大いに期待するところである。また、人材育成には、校外での研修とともに、校内の組織文化、風土の醸成の如何が大きく影響するところであり、この観点での本市教育委員会の手立てを明示されることも考えられる。

【未来の人材育成事業】

グローバル化やダイバーシティが加速度的に進む中、子供たちには今後ますます異文化や多様性を受容し、社会的包摂の理念のもと、協働して持続可能な社会を創造するためのコミュニケーションスキルや語学力を身に付けることが求められる。

本市教育委員会におかれては、ここ数年来「竹原英語チャレンジ」「イングリッシュキャンプ」等の事業を通して、児童生徒の英語力が着実に向上していることが見て取れる。ただ、英語検定 3 級取得率の年度ごとの上下の変動に対する評価については、冒頭で総括的な意見として明記したように慎重な判断を要する。

今後、各市立学校では、一貫した英語力向上に向けての外国語活動及び外国語科を中心とする全教育活動を通じたカリキュラム・マネジメントの遂行が肝要であり、より丁寧な指導、助言を期待する。

【「学びの変革」全校展開】

今年度から、全小学校において「社会に開かれた教育課程」をコンセプトにした新学習指導要領に則った学習活動が開始された。

本市各市立学校では、ここ数年来、教員の授業力向上に係る研修を充実し、学習指導要領に準拠した手堅い教育活動を展開されている。また、児童生徒の学力の定着状況については「全国学力・学習状況調査」等の結果を主たる拠り所として分析、授業改善に努められ、全市的には一定の成果が上がっていることが見て取れる。

今日、子供たちに身に付けさせたい資質・能力を、認知能力のみならず対人間関係能力、総合的な人間力等を視野に入れ、全国各地で校種を問わず STEAM 教育や SDG s に照射した PBL（問題解決型学習）等が展開されている。

本市教育委員会におかれても、同様に、各市立学校で「課題発見・解決学習」の単元開発に鋭意取り組まれ成果が上がっていると把握している。

今後においても、引き続き広島版「学びの変革」アクションプランを奨励されるとともに、「主体的・対話的で深い学び」を児童生徒に如何に保障するかを、各種研修会や校内

での授業研究等で追究されることを大いに期待するものである。

【学校 ICT 活用教育推進事業】

本市教育委員会におかれては、高度情報化社会を見据え、子供たちが近未来の社会において逞しく生き抜く資質・能力を育成する一方途として、長年にわたって ICT 活用教育の推進により多くの成果を上げられ、全国の先進地域として認知されていることは高く評価できる。

これまでの取組が功を奏し、この度の新型コロナ禍による子供たちの学びの遮断も最小限に留められ、児童生徒の探究的学びと健康安全を保障する双方向オンライン授業や教職員の働き方改革を推進するオンライン会議・研修等が恒久的に実施できるよう鋭意取り組まれていると聞く。

今後においては、プログラミング学習や遠隔授業による子供たちの資質・能力のさらなる向上を図られ、本市教育委員会のこれまでの実績及び充実した ICT 環境のもと、引き続き全国のリーディングエリアとして本市の将来を担う子供たちの育成を図られることを強く期待するものである。

【生徒指導支援員・小中一貫教育の推進】

子供たちを取り巻く社会の状況が刻々と変化する中、生徒指導上の課題が従前よりも増して多様化、複雑化してきている。また、思春期を迎える小学校高学年から中学時代は、全国的に心の不安定さに起因する、暴力行為、いじめ、不登校等が際立って現出しており、本市におけるこの時期のやや高い発生率も例外ではない。この課題解決のためには、各学校における一貫した指導体制が求められており、併せて、小・中学校間の円滑な連携・接続が重要視されているところである。

本市教育委員会におかれては、生徒指導支援員の配置や教育相談室等と学校の綿密な連携が成果につながっていると推察される。

また、一昨年度、幸いにも義務教育学校である吉名学園が開校し、その成果の一つとして、小・中学校の円滑な接続による生徒指導上の諸課題が減少傾向にあると聞く。

市内の他の中学校区におかれても、小中連携の会議や研修を定期的実施され、吉名学園同様、9年間を見通した教育課程の編成、小中合同の行事の開催、小中一貫した発達の段階や個の実態を考慮した「個別最適化された学び」の保障、生活の決まりの見直し等により、連続性のある学習指導、生徒指導が図られ成果に繋がっている。引き続き、生徒指導支援員を中心に教育相談室等関係機関との連携のもと、各中学校区単位での独自の有効な取組や成果が上がった事例の全市立学校での共有を期待するものである。

【体力テストの分析を通じた指導の工夫改善】

児童生徒の体力向上の要因については、各市立学校の体育科・保健体育科のカリキュラ

ムや担当教員の指導力はもとより、部活動担当者の指導力、全教育活動を通じたカリキュラム・マネジメント等の如何に密接な関係がある。また、家庭環境に係り、生活様式や食の問題、さらには、地域文化や風土、地域の教育力等も影響を与えるため、今一步包括的な要因分析と施策が肝要である。

また、県全体との数値比較による評価は、ここ数年、年度ごとに種目別の評価が上下変動している実態からも、冒頭での総括的な意見の中で明記したように、より慎重な評価を要する。

【地域交流センター運営事業・学びから始まる地域づくりプロジェクト】

令和元年度の地域交流センター利用者数は、前年度と比し減少している。こうした傾向は、個人の社会的ニーズ等の急速な変化に対応が遅れている公共施設全般の全国的な課題とされている。

幸いにも昨年度から公民館から移行した本市各地域交流センターは、これまで市内各公民館で展開されてきた生涯学習事業を一層充実されるとともに、世代を超えた新たな交流を生み出すための「仕掛けづくり」の機能を付加され「地域力向上活動」の拠点としてスタートされている。また、県モデル事業として新たに開始された「学びから始まる地域づくりプロジェクト」も、社会教育主事の養成や「新しい公共」の概念を活かした自助努力で地域課題を解決するプログラム開発等、地域交流センターを核とした地域づくりを推進する事業の一つとして大いに期待される場所である。

今後においては、首長部局地域づくり課・文化生涯学習課等との連携を密にされつつ、市民に対する啓発活動を推進するとともに、自治会、協働組織、各種関係団体等の人々の交流と連携の機会と場がさらに活性化するように諸施策を講じられ、本市の地域コミュニティの創生や協働のまちづくりのさらなる前進を切望する。

とりわけ、持続可能な本市の将来を担う子供たちの育成を図る地域とともにある学校づくりを標榜される本市教育委員会におかれては、地域交流センターが故郷を大切にすること子供たちの豊かな学びの核となる場として機能するよう各市立学校へ働きかけられることを期待するものである。

【スポーツ推進委員活動事業・トップアスリート等スポーツ教室】

スポーツは、心身の健康や体力の維持増進を図るとともに、人格形成にも大きく関与し、文化的な生活を営むための根幹でもある。また、スポーツの普及により、地域コミュニティの活性化が図られ、地域社会に活力を生み出すことにも副次的な意義がある。

こうした中、本市のスポーツ振興を下支えする推進委員の各種研修会等での学びによる資質・能力の向上は、単発的なイベントの場だけでなく陰に陽に持続的な市民への啓発につながる。

また、秀でたトップアスリートの直接指導がなされるスポーツ教室や体験会の開催は、

子供たちの競技力の向上はもとより、夢と感動を与えるとともに、スポーツへの関心を高める絶好の機会となる。

毎年度、有限の財源の中で、これまで構築されたネットワークを大切にされ趣向を凝らして有効な教室を複数回開催されていることを高く評価するとともに、今後、本市のスポーツ振興がさらに促進されることを期待するものである。

【家庭相談員・青少年育成竹原市民会議・青少年指導員設置事業】

本市の持続可能な未来を創出するためには、乳幼児段階から成人になるまで切れ目のない子育て・家庭教育支援活動を推進し、子供たちの健やかな成長を図ることが肝要である。しかし、今日、核家族化や地域コミュニティの衰退による保護者の孤立、併せて経済的に厳しい家庭が増加し子供の貧困率が上昇する中、健やかな成長を阻害されている現状がある。

こうした現状に鑑み、行政機関や福祉関係機関がイニシアティブをとり、地域や学校等と連携を図りつつ、相互扶助による子育て・家庭教育支援の仕組みづくり、さらには地域づくりが希求されているところである。

幸いにも本市におかれては、妊娠期から子育て期において、親子の育ちを応援する「たけはらっこネウボラ」等のシステムが軌道に乗り、また、教育委員会所管の保護者同士が語り学び合う『『親の力』をまなびあう学習学習プログラム』も実働し成果が上がっている。今後においては、青少年育成竹原市民会議等を核にして学齢期以降への施策の重点化を図られ、より強い支援が急がれるところである。

【伝統的建造物群保存事業・日本遺産（北前船寄港地）活用事業】

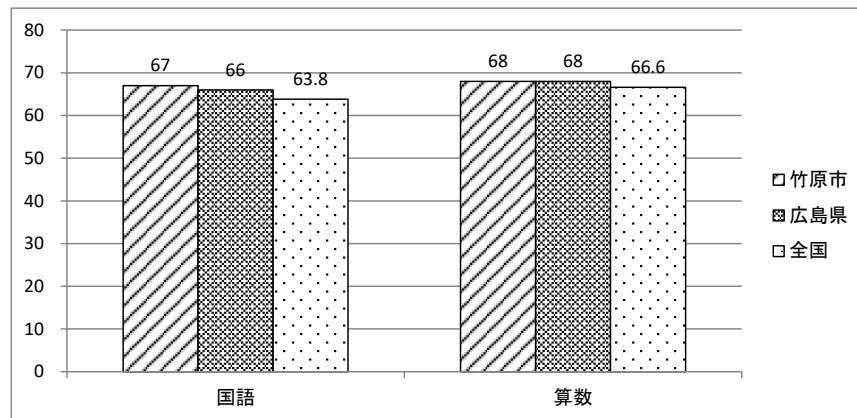
地域の歴史的魅力を発信し、地域活性化を図ることを主目的とする日本遺産のひとつに、昨年度「北前船寄港地・船主集落」として本市の町並み保存地区他が認定された。当該町並み保存地区は、ここ数年来の計画的な整備によって、文化・歴史の価値づけや維持・保存を確保するとともに、観光による本市産業の競争力強化の一方途として寄与していると考えられる。また、当該地区は、「誇りと愛着を持てるまち」「個性的で魅力あるまち」を目指される本市の一環施策として位置付けられ、訪れた観光客数も前年度の2割増しとなり着実に成果が上がっていると捉えられる。

また、本年度から本市施策の遂行をより堅実なものとするため、指定管理者から本市直轄の管理運営に戻される意義は大きいと考えられる。

本市教育委員会におかれては、歴史・文化財に係る諸事業の連動を図りつつ、実施されている歴史講座の開催等を通して、本市市民（青少年も含む）のシビックプライドを高め、更なる地域コミュニティの活性化が図られることを強く期待するものである。とりわけ、各市立学校に対しては、総合的な学習の時間等を活用し、児童生徒の「郷土竹原」の習得の学びから、探究的学びを創出するカリキュラム開発を奨励されることを期待する。

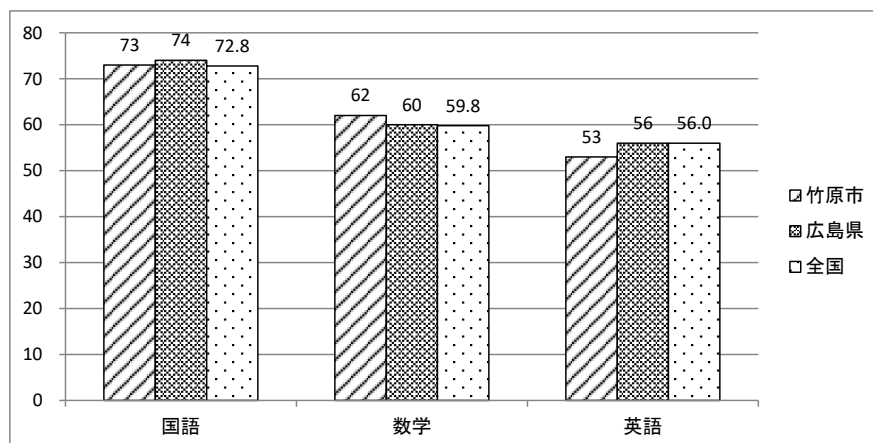
令和元年度全国学力・学習状況調査【小学校・義務教育学校】

| | 国語 | 算数 |
|-----|------|------|
| 竹原市 | 67 | 68 |
| 広島県 | 66 | 68 |
| 全国 | 63.8 | 66.6 |



令和元年度全国学力・学習状況調査結果【中学校・義務教育学校】

| | 国語 | 数学 | 英語 |
|-----|------|------|------|
| 竹原市 | 73 | 62 | 53 |
| 広島県 | 74 | 60 | 56 |
| 全国 | 72.8 | 59.8 | 56.0 |



令和元年度体力テストの結果

小5男子

| | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ボール投げ | 体力合計点 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|-------|-------|
| | (kg) | (回) | (cm) | (点) | (回) | (秒) | (cm) | (m) | (点) |
| R01竹原市 | 17.80 | 23.71 | 39.14 | 45.45 | 57.74 | 9.19 | 156.93 | 24.48 | 59.54 |
| H30竹原市 | 19.79 | 24.01 | 37.57 | 45.70 | 58.02 | 9.05 | 159.73 | 28.13 | 60.99 |
| R01広島県 | 16.62 | 21.46 | 34.31 | 43.90 | 53.35 | 9.29 | 154.45 | 24.48 | 56.09 |

小5女子

| | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ボール投げ | 体力合計点 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|-------|-------|
| | (kg) | (回) | (cm) | (点) | (回) | (秒) | (cm) | (m) | (点) |
| R01竹原市 | 18.59 | 23.39 | 42.22 | 45.39 | 51.24 | 9.32 | 154.81 | 16.14 | 63.68 |
| H30竹原市 | 18.45 | 22.81 | 39.98 | 43.87 | 52.08 | 9.22 | 153.30 | 16.73 | 62.28 |
| R01広島県 | 16.34 | 20.68 | 38.49 | 42.01 | 43.48 | 9.53 | 148.43 | 14.90 | 57.92 |

中2男子

| | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ボール投げ | 体力合計点 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|-------|-------|
| | (kg) | (回) | (cm) | (点) | (回) | (秒) | (cm) | (m) | (点) |
| R01竹原市 | 30.09 | 29.78 | 49.08 | 52.65 | 79.40 | 7.84 | 187.32 | 20.14 | 44.62 |
| H30竹原市 | 31.66 | 27.48 | 46.78 | 53.03 | 77.07 | 7.89 | 195.12 | 19.49 | 43.45 |
| R01広島県 | 29.49 | 28.49 | 45.88 | 54.05 | 84.88 | 7.86 | 199.22 | 21.31 | 44.03 |

中2女子

| | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ボール投げ | 体力合計点 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|-------|-------|
| | (kg) | (回) | (cm) | (点) | (回) | (秒) | (cm) | (点) | 点 |
| R01竹原市 | 23.57 | 26.88 | 49.17 | 47.12 | 55.98 | 8.64 | 165.95 | 14.17 | 52.20 |
| H30竹原市 | 23.87 | 28.47 | 50.01 | 48.88 | 57.38 | 8.64 | 178.11 | 13.75 | 54.63 |
| R01広島県 | 24.19 | 25.23 | 48.63 | 48.91 | 58.71 | 8.70 | 173.55 | 13.80 | 52.58 |

生徒指導上諸問題の状況(平成29～令和元年度)

| 暴力行為 | | 竹原市 | | 広島県 | |
|------|-----|----------|--------------|----------|--------------|
| | | 発生 件数 | 1000人 あたり | 発生 件数 | 1000人 あたり |
| 小学校 | H29 | 2 | 1.9 | 593 | 3.9 |
| 小学校 | H30 | 5 | 4.3 | 1,095 | 7.2 |
| 小学校 | R01 | 2 | 2.0 | | |
| 中学校 | H29 | 6 | 10.7 | 669 | 8.7 |
| 中学校 | H30 | 2 | 3.5 | 868 | 11.4 |
| 中学校 | R01 | 1 | 1.9 | | |
| いじめ | | 竹原市 | | 広島県 | |
| | | 認知 件数 | 1000人 あたり | 認知 件数 | 1000人 あたり |
| 小学校 | H29 | 10 | 9.4 | 2,963 | 19.5 |
| 小学校 | H30 | 20 | 18.9 | 5,127 | 33.6 |
| 小学校 | R01 | 2 | 2 | | |
| 中学校 | H29 | 15 | 26.9 | 1,202 | 15.6 |
| 中学校 | H30 | 9 | 16.2 | 1,875 | 24.7 |
| 中学校 | R01 | 1 | 1.9 | | |
| 不登校 | | 竹原市 | | 広島県 | |
| | | 人数 | 割合(%) | 人数 | 割合(%) |
| 小学校 | H29 | 2 | 0.1 | 893 | 0.59 |
| 小学校 | H30 | 1 | 0.09 | 1,074 | 0.70 |
| 小学校 | R01 | 1 | 0.1 | | |
| 中学校 | H29 | 19 | 3.4 | 2,149 | 2.78 |
| 中学校 | H30 | 12 | 2.3 | 2,438 | 3.21 |
| 中学校 | R01 | 8 | 1.6 | | |

(1) 竹原書院図書館利用状況

本館・視聴覚ライブラリー開館日数 265 日
 移動図書館者 92 日

令和元年度 図書の利用

| | | 本館 | 移動図書館車 | 合計 |
|--------|--------|---------|--------|---------|
| 個人貸出 | 登録者数 | 16,255 | — | 16,255 |
| | 貸出者数 | 32,734 | 6,532 | 39,266 |
| | 貸出冊数 | 141,452 | 21,877 | 163,329 |
| 団体貸出 | 団体登録者数 | 156 | — | 156 |
| | 貸出冊数 | 11,355 | 34,247 | 45,602 |
| 停本所 | 停本所数 | 10 | — | 10 |
| | 貸出冊数 | 10,273 | — | 10,273 |
| 貸出冊数合計 | | 163,080 | 56,124 | 219,204 |

(2) 美術館利用状況

| 区 分 | H29 | H30 | R1 |
|--------|----------|----------|---------|
| 年間利用者数 | 12,222 人 | 10,292 人 | 9,017 人 |

アートギャラリー・池田コレクション

| 区 分 | | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | |
|----------------------------|-------------|------------|---------|---------|---------|
| 年間開館日数 | | 270 日 | 246 日 | 241 日 | |
| 展覧会件数 | | 5 件 | 5 件 | 5 件 | |
| 総入場者数 | | 4,085 人 | 3,621 人 | 3,259 人 | |
| 展覧会平均入場者数 | | 817 人 | 724 人 | 652 人 | |
| 展 覧 会 入 場 者 | 1日平均入場者数 | 15.1 人 | 14.7 人 | 13.5 人 | |
| | 常 設 展 | 件数 | 4 件 | 4 件 | 4 件 |
| | | 開館日数 | 265 日 | 241 日 | 236 日 |
| | | 入場者数 | 3,759 人 | 3,513 人 | 3,111 人 |
| | | 1日平均入場者数 | 14.2 人 | 14.6 人 | 13.1 人 |
| | | 土日祝日平均入場者数 | 10.8 人 | 20.7 人 | 18.5 人 |
| | 企 画 展 | 件数 | 1 件 | 1 件 | 1 件 |
| | | 開館日数 | 5 日 | 5 日 | 5 日 |
| | | 入場者数 | 326 人 | 108 人 | 148 人 |
| | | 1日平均入場者数 | 65.2 人 | 21.6 人 | 29.6 人 |

文化創造ホール

| 区 分 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|----------|---------|---------|---------|
| 利用日数 | 126 日 | 96 日 | 87 日 |
| 展示会 | 47 日 | 36 日 | 42 日 |
| 文化講演・講座 | 0 日 | 0 日 | 0 日 |
| 演奏会等 | 0 日 | 0 日 | 0 日 |
| 参加型イベント | 2 日 | 0 日 | 0 日 |
| 講習会等 | 47 日 | 39 日 | 27 日 |
| 展覧会等準備日数 | 30 日 | 20 日 | 18 日 |
| 利用件数 | 54 件 | 38 件 | 28 件 |
| 年間入場者数 | 8,137 人 | 6,671 人 | 5,758 人 |
| 1日平均入場者数 | 64.6 人 | 69.5 人 | 66.2 人 |